

全国最多の会員数を誇る北海道に支部開設! 北海道支部設立記念セミナーを開催



栄養経営士・管理栄養士をはじめ、医師や事務部門職員、食品メーカー職員など多職種が集ったセミナー会場は、ほぼ満席となる盛況ぶり



基調講演を行う
児玉佳之北海道支部支部長



自らの実践を通して語る山下茂子理事



宮澤靖代表理事のもとで
栄養経営を実践してきた佐藤亮介氏

栄養部門が担う役割を多角的に考えよう!

北海道支部設立記念セミナーの冒頭では主催者として、北海道支部支部長に就任した児玉佳之氏（医療法人社団佳生会こだま在宅内科緩和ケアクリニック院長）が登壇。

「全都道府県の中で北海道が最も栄養経営士の会員数が多く、盛り上がりを感じている。本セミナーが皆さんにとって有意義なものになることを祈念したい」と挨拶した。

引き続き、児玉支部長による「医師が期待するこれからの栄養管理マネジメント」と題した基調講演が行われた。栄養経営士が求められる背景として、高齢化の進展に伴う医療費の増大や低栄養患者の増加などを指摘し、「今、自分にできることは何か、改めて考えなくてはならない」と訴えた。そのうえで医療人として、①患者・家族のQOL向上を最優先に考えた治療とケアの実践、②最新の知識を得るための努力、③ホスピタリティとコミュニケーションの重要性を述べた。

「特に栄養ケアにおいては、嗜好や食事を摂る環境など、それぞれの患者さんが望む食のあり方をしっかり理解して進めてほしい」と呼びかけた。

最後に、「今後は診療報酬体系の変化に柔軟に対応しながら、患者・家族のQOL向上を実現するためにチームで楽しく取り組んでいきたいと思います」と会場に

「いまましよう」と締めくくった。

次に、当協会の山下茂子理事が登壇。自身が管理栄養士として38年間勤務した国保水俣市立総合医療センターでの経験をもとに、実際に提供してきたすべて手作りの趣向を凝らした献立メニューを提示しながら、「私たちは、誰もがおいしく食べられる食事を提供する『食の管理人』である。食事がおいしくなれば病棟は遠い」と訴えた。さらに、「ただ漫然と仕事をしている『寝たきり管理栄養士』を生まないよう、マネジメントを徹底し、取り組んでいきましょう!」と会場に

患者・家族のQOL向上を図る 栄養経営士のミッションとは

3月25日（土）、日本栄養経営実践協会北海道支部が設立総会を開催し、正式に発足した。同支部はこれを記念し、「栄養部門が変われば病院・施設が変わる!」と題したセミナーを札幌市内で開催。100名超の参加者が集い、講演や栄養経営士による実践報告に熱心に耳を傾けた。

一般社団法人 日本栄養経営実践協会 主催

10年後も生き残れる管理栄養士を目指そう!

第4回
「栄養経営士」
資格認定試験

2017年 6月11日(日)

■受験料：8,000円(税込)

■試験会場(予定)：札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・大阪・福岡

■受験資格：管理栄養士(実務経験2年以上)かつ「栄養経営士」資格認定基礎講習修了者

「栄養経営士」資格認定基礎講習は
DVD視聴による受講も可能です!

3枚組・特典映像
「近森病院に学ぶ実践マネジメントのすべて」付き

くわしくは

🔍 栄養経営士

検索





児玉佳之北海道支部長(前列中央)をはじめとした、北海道支部の中心メンバー

エールを送った。
続いて、社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院栄養科係長の佐藤亮介氏が、管理栄養士が関係するコスト面の話題を中心に講演。当協会の宮澤靖代表理事(社会医療法人近森会近森病院臨床栄養部部長)のもとで10年間、科長として管理栄養士の病棟配置と適切な栄養サポートの実践で病院経営に寄与してきたことを、データを示しながら解説した。さらに、現在勤める五稜郭病院においても

「マネジャーとして管理栄養士の可能性を追求し、さまざまな改革を進めたい」と言葉に力を込めた。

存在意義向上を目指した実践活動の報告

最後は、北海道支部の理事に就任した2人の栄養経営士による実践報告が行われた。

医療法人溪仁会手稲溪仁会病院栄養部部長の田中智美氏は、管理栄養士の病棟常駐16年の歩みを振り返り、栄養部門が病院から必要とされる存在になるた

めには、掲げたビジョンを実践し、患者満足と治療成績双方の評価を獲得することが必要であると強調。

「医療者として栄養と徹底的に向き合うという覚悟が必要である」と熱く語った。

社会医療法人慎心会札幌慎心会病院栄養科主任の角直子氏は、管理栄養士の病棟常駐が当たり前になるまでの自身の心の変化、そして他職種から理解と信頼を獲得していくまでをユーモアを交えながら解説。

「やりたいことに取り組んでいたら、徐々に結果が付いてきて、後でマネジメントの大切さを実感した」と語った。

その後の質疑応答では、「毎日、仕事に当たっている中でポリシーは何か」という質問が2人に投げかけられ、「医療職のプロであるというプライドを大事に



実践報告を行う北海道支部理事の田中智美氏



実践報告を行う北海道支部理事の角直子氏



セミナー終了後に行われた懇親会は、和気あいあいとしたムードで進行

同じ想いをを持った仲間と出会えるチャンス

支部活動に参加しよう!

関東支部、九州支部では、研究会や講習会などを開催し、栄養経営士の皆さまのスキルアップをサポートしています。

本コーナーでは、これらのイベントに参加した方々の声をお届けします。

2017年度は、全国各地でますます充実した支部活動を行っていく予定ですので、どうぞお楽しみに!

関東支部研究会に参加

アットホームな雰囲気の中で実践につながるヒントが得られる

人見加奈子さん(社会福祉法人恩賜財団済生会神奈川県病院栄養科/関東支部)

第一線で活躍されている講師の先生方から、実践に役立つお話を聞ける貴重な機会だと感じています。テーマやジャンルが多岐にわたるので、今まで把握できていなかった問題に気づかされることが多いです。アットホームな雰囲気なので、講師の先生には具体的な質問もでき、アドバイスもたくさんいただけます。また参加者の方とも話しやすい雰囲気なので、業務についての相談などもできるのがありがたいです。

研究会が終わる頃には課題が明確になっていて、課題にどう向き合えばよいのか、実践につながるたくさんのヒントをいただけるので、いつも参加するのが楽しみです。

日々の業務を行っていく中で、自分自身「マネジメントの能力が足りない」と感じる事が多くありますが、学ぶ機会はまだまだ少ないように思います。情報を分析する能力やデータを活用する能力、伝える能力など、学ぶべきことはたくさんあると感じています。テクノロジーやビジネスなど幅広い分野の知識を学ぶ機会が増えたらうれしいです。いろいろな分野で活躍されている方や異業種の方からお話を聞ける機会などがあると新しい発見がたくさんあると思います。今後も多岐にわたる支部活動を期待しています。



第2回「全国栄養経営士のつどい」福岡大会に参加

パネルディスカッションがフレイル対策に取り組む契機に

橋口春美さん(医療法人耕雲会白石保養院管理栄養士/九州支部)

第2回「全国栄養経営士のつどい」福岡大会では、パネルディスカッションでの吉田貞夫先生のフレイルの説明が印象的でした。最期までその人らしい生活を送っていただくためには、生活の質を改善し、適切な運動や栄養摂取、日常生活指導など、フレイルの段階で支援することが重要だというお話でした。さらに、フレイルは握力検査によって簡易に評価できるので、栄養指導室に握力計を用意するとよいとのご提案がありました。さっそく当院の他職種に相談したところ、フレイルによる転倒・骨折の危険を予防する必要性を感じているとの意見が出て、「ぜひ、やろう」と賛同が得られたため、現在、握力計導入に動いています。

また、4人の栄養経営士による実践報告も、大きな刺激となりました。演題のさらに先を見据えて邁進する報告者の姿に圧倒されました。私も臨床栄養の最新情報を把握できるようになりたいと思います。そのためには、支部研究会などに積極的に参加することが大切なのだと感じます。

健康に関する情報が普及し、メディアの記事などについて患者さんからの質問も増えていきますので、支部研究会など学ぶ機会を利用して、専門的視点からの的確なアドバイスができるよう知識を高めていきたいです。

栄養部門が担うべき役割を多角的に考えよう！

1993年、「本場のNSTを学びたい！」という熱い想いを抱き、研修を受けるため、単身、米国・エモリー大学医学部附属病院へ渡りました。研修先で所属したのは、臓器移植外科です。臓器移植は基本的に予定を組むことができません。ドナーとレシピエントがマッチングしたらすぐに移植しなければならぬため、全症例がほぼ緊急手術となります。私の師匠は手術がある度に手術室に入ってしまうから、その間の栄養管理は私が担当することになります。

米国研修時代、限界状態で生じた弱い心が大失態を招く

本コーナーでは3回にわたり、栄養経営の道を切り拓いてきた宮澤靖代表理事の歩みを、ご自身のお話から振り返ります。

「病態変化を追い続けるのがわれわれの仕事」

翌朝、すぐに師匠に呼ばれ、輸液処方の方針を突きつけられて、「これらがノーチェンジである理由を説明せよ」と言われました。答えられるわけがありません。それでも厳しい目で問い詰められるので、正直に「師匠が不在のときにチェックした自分の判断が正しいかどうかから不安だった。それでも3日間、チェックし続けるうちに疲労が極限となり、師匠の処方なら大

あるとき、師匠が3日連続で手術室に入りっぱなしになりました。その間、私はほぼ徹夜で師匠が担当する患者さんの輸液の処方をチェックしていました。3日目、まばたきをするともそのまま寝てしまいそうになるほど、気力も体力も限界状態。そこでつい、

「師匠が立てた処方だから、細かくチェックするまでもないだろう。ノーチェンジで処方を切っても誰にもわからない」と怠け心が芽生えました。上がってくる輸液の処方をすべてノーチェンジで切って、「これでやっと眠れる」と家に帰ったのです。



は「とにかく帰れ」と言うばかりです。汲々帰り支度をして部屋を出ようとすると呼び止められ、「更衣室まで白衣を裏返して行け」と言われました。白衣の上腕に大学の校章とNSTのチームロゴが付いていたのです。そして、「うちのチームはやる気のないメンバーはいらない。このまま日本へ帰ってもいい」と言いました。このとき、初めて涙が出ました。

そのまま下宿へ帰ると、部屋の隅で泣きながら、ずっと考え続けました。「このままでは

NME TOPICS

栄養経営士必読誌『ヘルスケア・レストラン』が“読者参加型実践マガジン”へ大幅リニューアル！

創刊23年目となる月刊誌「ヘルスケア・レストラン」(日本医療企画刊)が、この4月、読者参加型実践マガジンとして全面的にリニューアルしました。

キャッチフレーズは、「みんなで創る栄養の未来」。毎回、臨床現場で活躍する管理栄養士の方々を編集委員にむかえ、独自の切り口で特集を企画・構成していきます。

読者からの投稿ページもありますので、栄養経営士のみなさんの情報発信の場として活用してみたいはいかがでしょうか？

くわしくは、「ヘルスケア・レストラン」ホームページをご覧ください。

リニューアルに向けて 宮澤靖代表理事からのメッセージ

現場の課題を吸い上げみんなで解決に臨む

最近、「栄養サポートチームは組織されたが、思うほど効果が発揮されていない」「スタッフ間で温度差があり、病院全体で栄養サポートの重要性が一致しない」「病院管理者を説得できるほどの成績や数字が残せていない」などの声をよく聞きます。なぜでしょうか？それは、チーム内で「管理栄養士が本来の業務に集中し、さらに提案するパフォーマンスができてない」からだと思います。管理栄養士自らが情報発信できなければ、栄養サポートの“司令塔”になれず、単に参加するだけのメンバーになってしまいます。それを打開するためには「自らの未来を自らが切り拓く」ことが必要です。「ヘルスケア・レストラン」リニューアルに伴う読者参加型誌面を楽しみにしております。



- 発行：株式会社日本医療企画
- 毎月20日発行
- A4判、80ページ
- 定価：1,188円(税込)
- *当協会会員の皆さまは割引価格でご購読いただけます！

リニューアル 2つのポイント

- ①より読者に寄り添ったテーマ選びを実現します！
- ②読者の皆さまの発表の場として、誌面をご活用いただけます！

みんなで創る栄養の未来、 読者参加型実践マガジン

月刊

「ヘルスケア・レストラン」

特集テーマ&編集委員

4月号 好評発売中！

食事オーダーを聞くだけで満足していませんか？

御用聞き管理栄養士からの脱却
大久保陽子氏 × 松永裕美子氏

5月号

「栄養士さん、ちょっと…」で心が折れたら終わり

クレーム対応から始まる
私たちの成長物語

阿部咲子氏 × 高崎美幸氏

6月号

あなたの栄養管理は誰の役に立っていますか？

必要不可欠な存在になろう！

秋山好美氏 × 高橋樹世氏

栄養経営士が知っておきたい!

イベント 情報掲示板

栄養経営士に求められるのは、さまざまな情報へのアンテナを張り、自身の知識・スキルを常にアップデートしておくこと。そのための貴重な機会である、セミナーや学会などのイベント情報を掲載します。

ヘルスケア・レストラン 特別セミナー

結果を出せる減塩指導セミナー

- 【札幌会場】
- 日時：5月27日(土)13:00～16:50
 - 会場：TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前5階「はまなす」
 - 参加費：無料
 - 定員：150人(定員になり次第締切)
 - 講演1：国家課題としての「透析予防」と地域ぐるみの「減塩」の重要性
松本洋氏(日本慢性疾患重症化予防学会理事)
 - 講演2：保険者と連携した糖尿病透析予防の取り組み(仮)
池島進氏(大館市立総合病院内分泌・代謝・神経内科部長)
 - 講演3：推定塩分摂取量と塩分交換表を活用した減塩指導
高橋友美氏(陵北クリニック内科外来看護師)
 - 主催：ヘルスケア・レストラン
 - 協賛：大塚食品株式会社
 - お申込は
ホームページ(<https://www.jmp.co.jp/seminar/genen/all/>)から

フォーラム情報

リハ栄養フォーラム2017

- 【名古屋会場】
- 日時：5月21日(日)12:30～16:30
 - 内容：総論「リハ栄養入門 ～リハ栄養の視点と実践～」、症例検討・実践報告ほか
 - 講師：前田圭介氏(一般社団法人玉名郡市医師会立玉名地域保健医療センター摂食嚥下栄養療法科NSTチェアマン)ほか
 - 会場：ウインクあいち大ホール(名古屋市中村区)
 - 参加費：3,000円
 - 定員：600人(定員になり次第締切)
- 【仙台会場】
- 日時：5月27日(土)12:30～16:30
 - 内容：総論「リハ栄養入門 ～リハ栄養の視点と実践～」、症例検討・実践報告ほか
 - 講師：前田圭介氏(一般社団法人玉名郡市医師会立玉名地域保健医療センター摂食嚥下栄養療法科NSTチェアマン)ほか
 - 会場：TKPガーデンシティ仙台 ホールA(宮城県仙台市)
 - 参加費：3,000円
 - 定員：300人(定員になり次第締切)
 - 主催：日本リハビリテーション栄養研究会
 - 共催：株式会社クリニコ
 - お申込(2会場共通)はホームページ(<http://e-toroku.jp/rihaeiyo2017/>)から

学会情報

第60回日本糖尿病学会年次学術集会

- テーマ：糖尿病学の夢の実現へ：未来への架け橋
- 日程：5月18日(木)～5月20日(土)
- 会場：名古屋国際会議場 ほか
- 内容：特別講演、会長講演、シンポジウム、ディベート、教育講演 ほか
- シンポジウム：「これからの食事療法の展望——関連学会からの提言」「チーム医療とテラーメイド糖尿病療養指導の実現力」 ほか
- ディベート：「食事療法について再考する～エネルギー制限か糖質制限か?～」
「肥満症例にはSGLT2阻害薬かGLP-1受容体作動薬か?」
「DPP-4阻害薬の可能性を探る～その血管合併症抑制効果は期待できるのか期待できないのか?～」 ほか
- 会長：中村二郎(愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科教授)
- ホームページ：<http://www.jds60.jp/>

学会情報

第60回日本腎臓学会学術総会

- テーマ：深化する腎臓学～科学と実践～
- 日程：5月26日(金)～5月28日(日)
- 会場：仙台国際センター、東北大学百周年記念会館
- 内容：一般演題、招請講演、特別講演、教育講演、シンポジウム ほか
- お問い合わせ：日本腎臓学会内 第60回日本腎臓学会学術総会運営事務局
TEL:03-5842-4131 FAX:03-5802-5570
- 会長：伊藤貞嘉(東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座腎・高血圧・内分泌学分野教授)
- ホームページ：<http://jsn60.umin.jp/>

「栄養経営士」資格認定基礎講習

「栄養経営」とは何か、「栄養経営士」とは何をする資格なのか——。

資格認定試験の受験前に、「栄養経営」という考え方を理解するために受講いただく講習です。宮澤靖代表理事が講師として教壇に立ち、1日の講義を通して「栄養経営士」になるための基礎を身に付けていただきます。本講習の受講が、栄養経営士資格認定試験の受験要件となります。

講習内容

オリエンテーション

「栄養経営士」に必要な能力について

1. 院内・施設内における栄養部門の現状分析
2. 目標設定能力と達成に向けた実践的アプローチ
3. 業務の質を高めるためのアウトカム分析
4. 「栄養経営士」に求められる教育と人事能力
5. 適材適所の組織マネジメント
6. 病能の把握能力

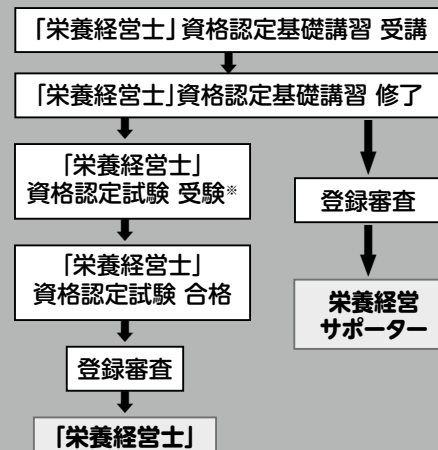
■講師：宮澤 靖 代表理事ほか

■受講料(会場、DVDとも)：8,000円(税込)

■時間：10:00～17:00(予定)

会場	日程
札幌	6月25日(日)
東京	7月1日(土)
名古屋	7月2日(日)
金沢	8月5日(土)
大阪	8月6日(日)
福岡	9月30日(土)

「栄養経営士」資格認定の流れ



※「栄養経営士」資格認定試験を受験するためには、「栄養経営士」資格認定基礎講習を修了し、管理栄養士として2年以上の実務経験を有している必要があります。

くわしくは

🔍 栄養経営士

検索

DVD視聴による受講も可能! ☆3枚組、特典映像付き☆

【お問い合わせ・資料請求】 一般社団法人日本栄養経営実践協会 TEL03-5289-7021 <http://www.nutrition-management.jp>